

子どもたちをダンスなどでもてなした児童＝7日、美浜町早瀬



空き家カフェよろこぶ

美浜西小6年 卒業前に住民おもてなし



スイーツ、ダンス… にぎわい創出へ発案

卒業式を前に、お世話になった地元へ貢献しようと美浜西小の6年生が7日、同町早瀬の空き家を活用した「空き家カフェ」を開いた。NIE（教育に新聞を）の授業で、町内に活用策を模索する空き家があることを知った児童らがカフェを発案。参加した町内の親子連れに感謝の気持ちを込めた手作りスイーツを提供するなどし、空き家が多い地域ににぎわいを創出した。

（成実宏一）

NIE実践指定校になっている近藤嘉宏さん（71）＝「っている同校の6年生19 敦賀市在住」の家を借り人は本年度、総合的な学習の時間を使って空き家の活用策を話し合ってきた。児童の祖父母も助言し、新聞記事を参考に空き家を使ったカフェの開催を計画した。

同町で空き家の利活用を進めるNPO法人「ふるさと福井サポートセンター」の協力を得て、空き家バンクに登録されて

いる近藤嘉宏さん（71）＝敦賀市在住」の家を借りた。校区内にある同区は町内で最も空き家が多く、2015年度の町の調査では約4分の1が空き家となっている。

カフェの開催は昨年12月に続き2回目で、今回は町内の親子連れら14組が集まった。児童はダンスや歌に合わせた手遊び、読み聞かせなどで子どもたちをおもてなし。カフェ担当の児童はメニュー板を片手に注文をとり、手作りのパウンドケーキや生チョコなどのスイーツ、ドリンクを提供した。

矢部大智君は「小さい子どもと触れ合えて楽しかった。古民家をカフェなどに利用することで地域が活性化するとうれしい」と笑顔で話した。戦時中両親が苦労して建てた家を壊すことは忍びない、扱いに悩んでいた近藤さんは「子どもたちの案で家がにぎわって良かった。今後有効に使ってくれたら」と感謝していた。